

Θυσία

テウシァ

知っておきたいキリスト教のことば (48)

犠牲 ぎせい

犠牲という考え方は、旧約聖書の祭儀の中によくみられます。レビ記には、焼き尽くす献げ物や和解の献げ物、贖罪の献げ物といういけにえの献げ方が出てきます。このときに「犠牲」として献げられるのが、牛や羊などの動物です。

また旧約聖書には、アブラハムがその息子イサクを神にささげようとする場面も書かれています。神さまの怒りをしずめたり、神さまとの関係を修復するために、「犠牲」をささげるのです。

新約聖書(新共同訳)では、この「犠牲」という言葉は「いけにえ」と訳されています。イエス様はこの犠牲の制度自体にはなにも言及されていません。しかし現在のキリスト教では、動物をいけにえにするようなことはおこなっておりません。

それはイエス様によって立てられた新しい契約によって、旧約の犠牲の制度は不要になったと考えられているからです。特にパウロは、ユダヤ教でおこなわれている祭儀の犠牲と、イエス様との十字架を重ね合わせて考えました。

さらにイザヤ書 53 章の苦難の僕(しもべ)の姿をイエス様と結び合わせることによって、イエス様はわたしたちの罪の贖いのために十字架につけられ、わたしたちのために「犠牲」となられたと考えているのです。

そのイエス様に倣うわたしたちは、「自分の体を神に喜ばれる聖なる生けるいけにえとして献げなさい」(ロマ 12:1)と促されているのです。わたしたちの信仰生活は、「犠牲」を抜きにしては考えられないのです。

「神さま、どうぞわたしを用いてください」、その祈りを神さまは待っておられるのです。

次回は「奇跡」です。お楽しみに。



「ヘントの祭壇画」

ヤン・ファン・エイク(1395頃~1441年)

モーセは、イスラエルの長老をすべて呼び寄せ、彼らに命じた。「さあ、家族ごとに羊を取り、過越の犠牲を屠りなさい。(出エジプト記 12章 21節)

